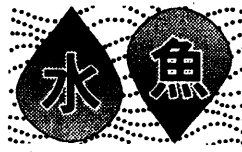


2008年(平成20年)7月31日(木)



吉村 和就

開催される
この研究会
は、国会議
員、外部委
員、関係省
庁の幹部で
ほとんど満
席である。国会議員の先生を観察
すると、熱心にメモを執る議員、
タバコの吸い殻だけが增える議員
(会議室は禁煙ではない)、腕を
組み目を閉じている議員(考えて
いるのか、休んでいるのか不明)
さまざまである。

自民党の「水の安全保障研究会」
の外部委員および報告書策定委員
を拝命したおかげで、テレビでし
か見ることのできない大物政治家
や国会議員の先生を間近に見て、
接することができた。

水曜日、早朝8時から党本部で

質疑応答が面白い。ある先生は
滔々(とうとう)と持論を述べ質
問を忘れる。また、ある先生は意
味不明の質問や、数値や固有名詞
を何回も確認する先生もいる。

数値や固有名詞を確認される

と、「なんと熱心な国会議員だ」

と感心するが、先生はその後の自
分の後援会で、その数値や固有名

赤い絨毯を踏む人

一先生の凄いとこ

は、講演では、原稿は

一切見ないで長時間話

すことである。用意周到な準備を

した上で、公衆の面前では、「原

稿を見ないで聴衆の顔を見て熱く

語りかける」この特技も、赤い絨

毯を踏む人には必須である。国会

議員、なるのも大変、なっても大

変である。

(グローバルウォーター・ジャパ

ン代表)

この特技が必須である。

中川昭一先生はメキ魔である。

特に数値は完璧に書き込んでい

る。さらにその数値を複数の人に

聞いて確かめ、また出典を明らか

にしている。講演の前によく数値

の確認の電話をいただいた。元銀

行マンの先生、数値の怖さや、大

臣をしていた時の発言の大きさが

身にしみているのだろう。中川昭

発生土の可能性広がる

PSI協会
東北大学

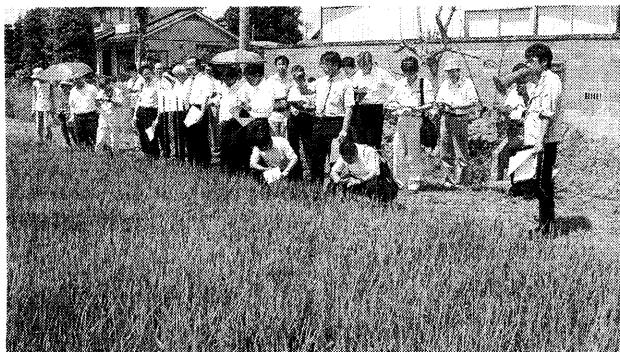
水稲の生育状態見学

米収量の増加に期待

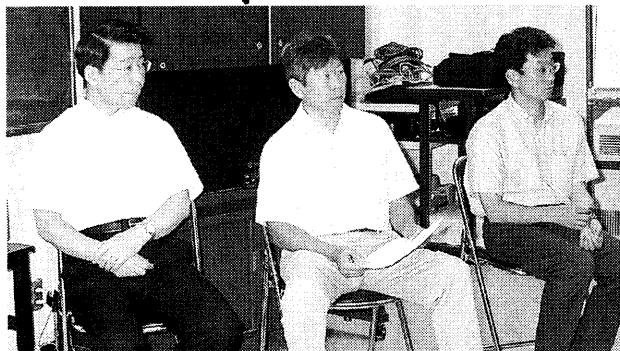
ポリシリカ鉄凝集剤普及協会(PSI協会)と東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センターは15日、PSI浄水発生土水田施用試験見学ツアーを実施、同協会会員ら約40人が参加した。同試験は、PSI浄水発生土に含まれる鉄、ケイ酸および原水に由来する有機物が、水稲の生育に有効であるとともに、水田から発生するメタンガスを低減する作用があることに着目した。同大学大学院の伊藤豊彰准教授らが今年5月から実際の水田圃場で行っているもの。それぞれ土壌土質の違う宮城県大崎市の同センター(東北大学農場)の圃場、山形県鶴岡市の圃場、大崎市古川の圃場の3カ所で行った。長浜水道企業団から提供されたPSI発生土を施用しており、7月中旬現在の稲の生育状況を見学してもらうため見学会を実施した。



PSI発生土を施用した大崎市古川の圃場



水稲の生育状態の説明を受ける参加者ら



講演した吉村代表(左)、高崎教授(中)と伊藤准教授



海老江名誉教授



伊藤准教授

今回は、一般の農家から借り受けた古川の圃場を見学、圃場を6×4・5区ごとに区切り、それぞれ30

0区(PSI浄水発生土を300kg/平方区施用)、500区(同500kg/平方区施用)、無施用区とした3区画が4列並んでいる様子を見た。

見た目では大きな違いはわからないが、有機物中の窒素によりPSI施用区は葉の数が若干増え、葉色がわずかに濃い傾向があるといる。これまでの小規模な実験では10〜20%程度の玄米収量の増量が認められたが、今回の実圃場での収量は収穫期まで確認できない。なお、メタンガス低減効果については今回、実験対象としていない。

圃場の見学のあと、東北大農場内の川渡共同セミナーセンターで講演とパネルディスカッションを行った。講演では伊藤准教授が今回の試験の概要やこれまでの研究の概要を紹介し、期待される成果などについて説明した。

続いて海老江雄北見工業大学名誉教授をコーディネーターに伊藤准教授、高崎みづる石巻専修大学理工学部教授、吉村和就グロバルウォータージャパン代表がディスカッションし

た。高崎教授はケイ酸と磯焼けの関係性について研究していることから、海苔や牡蠣の養殖にPSI浄水発生土を利用しようと、今年8月から実験を予定しており、その概要などを紹介した。

吉村代表は自民党の「水の安全保障研究会」の経過等を報告したほか、グロバルな視点でPSIの可能性や水を取り巻く世界の状況などを話した。